

WG3 技術評価・認証WG リーダー： 名古屋大学教授 成瀬一郎 サブリーダー：名古屋大学准教授 小林敬幸

概要

- ・ 今後企業がCarbon Foot PrintやCarbon Pricing等に対応（製品取引）
 - ▮ 温室効果ガスの排出量算定の評価や認証
- ・ 水素・アンモニア利用技術開発のための安全な取扱いに関する相談

■ ミッション

- ・ Carbon Neutral社会創成のためのCarbon Foot Print・Carbon Pricing
 - ▮ 企業
 - ・ . . . CO₂ 排出量算定
 - ・ . . . 科学的見地から独自認証・評価の仕組み
 - ・ . . . 国際認証手続きを支援する仕組み
- ・ 水素・アンモニアの安全な取扱いに係る支援
 - ・ . . . 利用技術開発に貢献

■ 活動の方向性

- ・ 企業の個性に基づいた必要な技術に関する情報の提供
- ・ 脱炭素活動の仕組みづくりを支援するためのサービス体制の構築
- ・ 脱炭素活動の効果を定量的に評価

■ 参加メンバー

- ・ ゼロカーボン協働WGのメンバーに本WGへの参加意向を確認
（新たなメンバーも募集）
- ・ CO₂排出量の算定に課題をお持ちの会員
- ・ 水素・アンモニア利用技術開発や導入に関心・検討されている会員

サプライチェーンCO₂排出量とは？

事業活動によって排出されるあらゆる「温室効果ガス」の排出量をCO₂に換算して算定した量

温室効果ガス

二酸化炭素(CO₂) (化石燃料由来, 非化石燃料由来がある)

メタン(CH₄)

亜酸化窒素(N₂O)

ハイドロフルオロカーボン(HFCs)

パーフルオロカーボン(PFCs)

六ふっ化硫黄(SF₆)

三フッ化窒素(NF₃)

(ガスの種類によって, 温室効果の高さが異なる)

何のためにサプライチェーンCO₂排出量を算定をするのか？

1. 事業者の温室効果ガス排出量の現状と削減努力を可視化することが可能
2. サプライチェーン排出量をCSR報告書やWEBサイト等に掲載することで環境対応企業としての企業価値の向上
3. 今後のCO₂排出活動の計画作成に貢献



○の数字はScope 3のカテゴリ

CSR: Corporate Social Responsibility : 企業の社会的責任

Scope 1, 2, 3 とは

【サプライチェーンCO₂排出量】

= [Scope1排出量] + [Scope2排出量] + [Scope3排出量]

Scope1 : 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出

Scope2 : 他者から供給された電気, 熱・蒸気の使用に伴う温室効果ガスの間接排出

Scope3 : Scope2 以外の温室効果ガスの間接排出
(事業者の活動に関連する他者の排出)



[Scope1排出量] + [Scope2排出量] はあいちゼロカーボン推進協議会(iZEC)とNPO法人AKJ環境総合研究所によって認証

サプライチェーンCO₂排出量(Scope1,2)の 算定ツールを提供

Scope認定申請書ver1-1.xlsx - Excel kobayashi noriyuki 何をししますか

ファイル ホーム 挿入 描画 ページレイアウト 数式 データ 校閲 表示 開発 ヘルプ ACROBAT

AKJ環境総合研究所 **IZEC** AKI+ ZERO CARBON ORGANIZATION

温室効果ガス排出量算出
認証事業

貴事業所の事業活動における
SCOPE-1およびSCOPE-2に関
わる温室効果ガス排出量を自ら
算出し、その結果を、NPO法人
AKJ環境総合研究所ならびにあ
いちゼロカーボン推進協議会が
その内容を審査し認証します。

認証後は、日本語および英語で
記載される認証書を発行します。

SCOPE排出量 認証申請書

申請日	20xx年 yy月 zz日
会社/団体名	(ふりがな)
代表者名	
代表者の職名	
所在地 (郵便番号)	
所在地 住所	
URL	
主たる事業	
資本金	
従業員数 (常勤・非常勤)	
当事業の責任者	
TEL	
E-mail	
自ら算出したScope1排出量	0 t
自ら算出したScope2排出量	0 t

以下は記入しないでください

受付日	
担当者	

申請書送付先: 非営利活動法人AKJ環境総合研究所
Scope排出量認証事業担当 scope123@energy.gr.jp

申請書表紙 基礎データ データシート1 データシート2 データシート3 データシート4 データシート5 ... 準備完了 アクセシビリティ: 検討が必要です 94%

認証書

温室効果ガス排出量算出量

認証事業所名

愛知ゼロカーボンサポート オフィス

貴事業所の事業活動におけるSCOPE-1およびSCOPE-2に関わる
温室効果ガス排出量の算出結果を精査したところ、産出量が妥当
であることを認証します。

認証事業活動期間：2021年1月から2022年12月

認証日：2023年3月31日

認証番号：2022-S0001-A0001

++++ 認証した温室効果ガス排出量 +++++

SCOPE-1: 1234 t-CO₂/年, SCOPE-2: 5678 t-CO₂/年

認証した排出量の詳細は添付書類に記載。



2024年度の活動計画

1. WGメンバーの募集・WGの体制構築

- ・総会におけるプレゼンテーション
- ・ホームページによる広報
- ・WG会議を開催しWGの体制構築を実施
(円滑かつ効率的なWGの運営)

2. 具体的な取組の検討

- ・WG会議を開催し具体的な取組について検討

3. 取組の実施

- Scope1,2算定と認証事業の実施
- Scope1,2,3算定のための講習
- 中小企業向けSBT認証への支援
- 水素・アンモニア取り扱い講習会の開催

SBT (Science Based Targets) : 温室効果ガスの排出削減目標

	中小企業向けSBT	<参考> 通常SBT
対象	以下を満たす企業 ・従業員500人未満・非子会社・独立系企業	特になし
目標年	2030年	公式申請年から、 5年以上先、10年以内の任意年
基準年	2018年、2019年、2020年、2021年から選択	最新のデータが得られる年での設定を推奨
削減対象範囲	Scope1,2排出量	Scope1,2,3排出量。但し、Scope3がScope1～3の合計の40%を超えない場合には、Scope3目標設定の必要は無し
目標レベル	■ Scope1,2 1.5℃：少なくとも年4.2%削減 ■ Scope3 算定・削減（特定の基準値はなし）	下記水準を超える削減目標を任意に設定 ■ Scope1,2 1.5℃：少なくとも年4.2%削減 ■ Scope3 Well below 2℃：少なくとも年2.5%削減
費用	1回USD1,000(外税)	目標妥当性確認サービスはUSD9,500(外税)（最大2回の目標評価を受けられる） 以降の目標再提出は、1回USD4,750(外税)
承認までのプロセス	目標提出後、自動的に承認され、SBTi Webサイトに掲載	目標提出後、事務局による審査（最大30営業日）が行われる 事務局からの質問が送られる場合もある

[出所]SBT SME Target setting Form (https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfT5t3df23LPbtgQyYpNh6L8-Uzmri1L7p_pb3kL6-p67IhVg/viewform) より作成